



Fiery FreeForm Create

© 2026 Fiery, LLC. 本書に記載されている情報は、本製品の『法律上の注意』の対象となります。

2026 年 1 月 9 日

目次

Fiery FreeForm Create	5
システム要件	5
FreeForm Create 環境設定	6
FreeForm Create 環境設定の変更	6
ファイルマージワークフロー	7
マージ書類の作成	7
デザインファイルの変更	8
ファイルマージのデザインにバリアブルページを割り当てる	9
ファイルマージのデザインにページを追加する	9
ファイルマージのデザインからページを削除する	10
ファイルマージのデザインのプレビュー	10
バリアブルデータ書類ワークフロー	11
データソース書類の作成	11
データソース書類にレコード数を追加する	13
バリアブルデータ書類の作成	13
バリアブルデータ書類デザインでファイルを変更する	14
データプリフライトの確認	15
バリアブルフィールドの追加	15
ナビゲーションパネルまたはプロパティパネルのフローティングとドッキング	16
レイアウトアシスタンスツール	16
位置とサイズの変数	17
変数の配置	17
テキストの管理	18
イメージの管理	25
バーコードの管理	26
スタイルマネージャー	29
すべてのページにコピー	35
バリアブルフィールドの削除	35
バリアブルフィールドの複製	36
マルチ-up マスターを使用する	36
バリアブルオブジェクトの順序を定義する	37
変数ベースのデザインをプレビューする	37

デザインの保存	38
Fiery サーバーにデザインを送信する	39
Fiery XF サーバーにデザインを送信する	39
単一レコードの PDF プレビューを保存する	40
レコード範囲を Fiery サーバーに送信する	40
小さいバッチで Fiery サーバーにデザインを送信する	41
FreeForm Create を使用する Fiery サーバーを管理する	42
FreeForm Create から印刷する Fiery サーバーを追加する	42
FreeForm Create で使用されている Fiery サーバーを削除する	42
付録：サポートされているバーコードタイプ	43

Fiery FreeForm Create

Fiery FreeForm Create はスタンドアロンのバリエブルデータ作成アプリケーションで、Fiery FreeForm バリエブルデータ印刷（VDP）テクノロジーに基づいて構築されています。

メモ：本書では、「FreeForm Create」という表記は「Fiery FreeForm Create」を指します。

FreeForm Create では、視覚的で操作しやすいアプリケーションでバリエブルデータ印刷（VDP）ジョブを作成します。

VDP ジョブでは、書類全体で共通して用いられるマスター要素セットと、出力ごとに異なるバリエブル要素セットを組み合わせます。

これにより、パンフレットの挨拶に顧客名を入れたりデータベースから取得したその他の個人情報を使用するなど、パーソナライズされた印刷物を作成できるようになります。この場合、すべてのパンフレットに共通の背景、イラスト、テキストブロックなどがマスター要素で、名前などの、顧客ごとに異なる情報がバリエブル要素です。

FreeForm Create では、VDP ジョブを簡単にカスタマイズできる 2 つの異なるワークフローを使用します。

ファイルマージワークフローでは、グラフィックベースの直観的なインターフェイスを使用して、マスター書類とバリエブル書類を組み合わせ、カスタマイズされた印刷物を作成します。

バリエブルデータ書類ワークフローでは、マスター書類をデータソーススプレッドシートの変数と直接組み合わせ、カスタマイズされた印刷物を作成します。その際、最初にバリエブル書類を別途作成する必要がなく、バリエブルデータ作成アプリケーションも必要ありません。

システム要件

FreeForm Create 2.0 を実行するための最小要件は次のとおりです。

macOS

- Mac OS X 13.0 以降
- 4GB 以上の RAM（推奨）
- 7 GB のハードディスクドライブ空き容量
- 最小表示解像度：1280 x 1024

Windows

- Microsoft Windows 10（64 ビット）以降
- Windows Server 2016（64 ビット）、Windows Server 2019、Windows Server 2022
- Intel Core i3 プロセッサ以上
- 4 GB 以上の RAM（推奨）

- 16 GB のハードディスクドライブ空き容量
- 最小表示解像度：1280 x 1024

Fiery システムでの印刷サポート

FreeForm Create は、Fiery システムソフトウェア FS200 以降でサポートされています。FreeForm Create は Fiery XF 9.0 以降でもサポートされています。

FreeForm Create 環境設定

FreeForm Create 内で、言語、日付と時刻の形式、測定単位などの環境設定を変更できます。

FreeForm Create 環境設定の変更

- 1 環境設定を変更するには、**作成**ウィンドウで**環境設定**ボタンをクリックします。
環境設定で、以下を変更できます。
 - 言語：FreeForm Create で使用するデフォルト言語を選択します。
 - デフォルトの単位：ピクセル、ミリメートル、インチ、センチメートルまたはポイントをデフォルトの測定単位として選択します。
 - 日付形式：日付の月、日、年を表示するデフォルトの形式を選択します。
 - 時刻形式：時刻の時、分、秒、AM または PM を表示するデフォルトの形式を選択します。
 - バーコードカスタマイズファイル：バーコードスタイルをカスタマイズする.json ファイルを選択します。
 - ファイルパス：デザインで使用するコンテンツを含むフォルダーを最大 3 つまで指定します。
 - Fiery ソフトウェアの改善に協力する：切り替えボタンをクリックして、FreeForm Create の改善に使用される統計データを共有します。
 - デフォルト設定に戻す：クリックすると、すべての環境設定が元のデフォルト設定に戻ります。
- 2 **OK** をクリックします。

ファイルマージワークフロー

FreeForm Create のファイルマージワークフローでは、マスター書類とバリアブル書類を組み合わせます。

ファイルマージワークフローでは、FreeForm バリアブルデータテクノロジーを使用して、マスター書類とバリアブル PDF 書類を組み合わせ、Fiery サーバーで印刷される単一の VDP ジョブを作成します。FreeForm Create では、グラフィックインターフェイスを使用してファイルをマージして、VDP ジョブの最終的な外観を指定します。

このワークフローは、Enhanced FreeForm の既存ユーザーが視覚的で操作しやすい方法でマスター書類とバリアブル書類を組み合わせたいと考えている場合に最適です (Command WorkStation でジョブのプロパティからアクセスします)。

マージ書類の作成

FreeForm Create では、ユーザーの仕様に従ってマスター書類とバリアブル書類を組み合わせ、Fiery サーバーで印刷できる FreeForm ファイルを作成します。

以下の点に留意してください。

- .pdf 形式のマスター書類が必要
- .pdf 形式のバリアブル書類が必要

1 作成で、ファイルマージ書類をクリックします。

2 次のいずれかを行って、マスター書類を選択します。

- **参照**をクリックし、マスター書類を見つけて選択する
- マスター書類ファイルを**マスター書類の選択**ウィンドウ上の指定のドロップ位置までドラッグする

メモ：マスター書類は PDF である必要があります。

マスター書類の最初のページが表示されます。

3 オプション: 間違ったファイルを選択した場合は、次のいずれかを行います。

- **変更**をクリックして、正しいファイルを参照する
- **除去**をクリックして、選択をクリアする

4 次へをクリックします。

5 次のいずれかを行って、バリアブル書類を選択します。

- **参照**をクリックし、バリアブル書類を見つけて選択する
- バリアブル書類ファイルを**バリアブル書類の選択**ウィンドウ上の指定のドロップ位置までドラッグする

メモ：バリアブル書類は PDF である必要があります。

バリアブル書類の最初のページが表示されます。

6 オプション: 間違ったファイルを選択した場合は、次のいずれかを行います。

- **変更**をクリックして、正しいファイルを参照する
- **除去**をクリックして、選択をクリアする

7 **作成**をクリックする

8 結合した書類にマスターページとバリアブルページを割り当てます。


9 マージ書類を保存するか、Fiery サーバーに送信して印刷します。

デザインファイルの変更

ファイルマージのデザインで使用するマスターファイルまたはバリアブルファイルを変更します。

ファイルマージのデザインには、マスターファイルとバリアブルファイルが含まれています。バリアブルファイルを変更せずに、ファイルマージで使用するマスターファイルを変更してデザインを更新することができます。また、マスターファイルを変更せずに、バリアブルファイルを変更して新しい対象ユーザー向けに変数情報を更新することもできます。

マスターファイルの変更


1 **デザイン**ウィンドウの左にあるパネルで、マスターファイルの  をクリックします。

2 **変更**をクリックします。

3 目的のマスターファイルを選択し、**完了**をクリックします。

メモ：マスターファイルは PDF である必要があります。

バリアブルファイルの変更

1 **デザイン**ウィンドウの左にあるパネルで、バリアブルファイルの  をクリックします。

2 **変更**をクリックします。

3 目的のバリアブルファイルを選択し、**完了**をクリックします。

メモ：バリアブルファイルは PDF である必要があります。

ファイルマージのデザインにバリアブルページを割り当てる

ファイルマージワークフロー内の特定のマスターページに特定のバリアブルページを割り当てます。

以下の点に留意してください。

マスター書類とバリアブル書類が必要です。

結合した書類のページ数とページの順序が正しいことを確認します。

- 1 ファイルマージのデザインを開くか作成します。
- 2 レコードごとのバリアブルページ数を参照してください。

メモ：レコードごとのバリアブルページ数は、VDP レコードを構成するバリアブルページの数を制御します。

- 3 **バリアブル書類**パネルから、次のいずれかを行います。

- **レコードごとの結合ページ数**で、割り当てるバリアブルページを結合ページにドラッグする
- **レコードごとの結合ページ数**パネルで、結合ページの**変数**ボックスにバリアブルページ番号を入力する

メモ：レコードごとの結合ページ数パネルの下部にあるナビゲーションバーを使用すると、結合ページ間を移動できます。


メモ：バリアブル書類パネルの上部にあるナビゲーションバーを使用すると、使用可能なバリアブルページ間を移動できます。

更新された結合ページが表示されます。

- 4 必要に応じて手順3を繰り返し、バリアブルページを割り当てます。


メモ：1つのバリアブルページを複数の結合ページに割り当てることができます。

ファイルマージのデザインにページを追加する

- 1 ファイルマージのデザインを開くか作成します。
- 2 ページを追加するには、次のいずれかを行います。
 - **レコードごとの結合ページ数**パネルで、ページを右クリックして**ページを前に追加**または**ページを後に追加**を選択する
 - **レコードごとの結合ページ数**パネルで、ページを選択し、 をクリックして**ページを前に追加**または**ページを後に追加**を選択する
 - **概要**パネルで、**レコードごとの結合ページ数**の値を増やして、ファイルマージデザインの末尾にページを追加する
- 3 新しいページを選択します。
- 4 新しいページにマスターページやバリアブルページを割り当てます。

メモ：ブランクページを挿入するには、マスターページとバリアブルページを割り当てません。

ファイルマージのデザインからページを削除する

- 1 ファイルマージのデザインを開くか作成します。
- 2 ページを削除するには、次のいずれかを行います。
 - レコードごとの結合ページ数パネルで、ページを右クリックして**削除**を選択する
 - レコードごとの結合ページ数パネルで、ページを選択して  をクリックする

ファイルマージのデザインのプレビュー

保存または印刷する前に、ファイルマージワークフローでバリアブル書類とマスター書類を組み合わせた結果を確認します。

- 1 ファイルマージのデザインを開くか作成します。
- 2 **プレビュー**をクリックします。
- 3 **プレビュー**ウィンドウの下部にあるコントロールバーを使用して、ファイルマージデザインのページをレコード単位またはページ単位で移動します。



ボタンを押し、ドラッグして、コントロールバーを動かします。

- 4 プレビューを確認します。



をクリックするとズームイン、



をクリックするとズームアウトできます。

バリアブルデータ書類ワークフロー

FreeForm Create のバリアブルデータ書類ワークフローでは、データソース書類から得られる情報をマスター書類と組み合わせます。

バリアブルデータ書類ワークフローでは、データソース書類に含まれている情報（テキスト、バーコード、画像、小さな 1 ページ PDF ファイルなど）をマスター書類と組み合わせて VDP ジョブを作成します。その際に、バリアブル書類ファイルを別途作成したり、バリアブルデータアプリケーションを別途使用する必要はありません。

FreeForm Create では、変数を操作し、必要な量の情報をマスターに追加できます。

データソース書類の作成

FreeForm Create のバリアブルデータ書類ワークフローで使用するデータソース書類を作成します。

なお、FreeForm Create でサポートしているデータソース書類の形式は.xlsx、.xls、.csv のみです。バリアブルデータ書類ワークフロー用のデータソース書類を作成するには、サポートされている形式で書類を保存できるスプレッドシートアプリケーションを使用します。

バリアブルデータ書類ワークフローで、データソース書類は結合された書類で使用されるバリアブル情報を提供します。

- 1 スプレッドシートアプリケーションで、最初の行に変数名を入力します。セルごとに 1 つの変数名を使用します。
 - スプレッドシートの最初の行は列見出しとして機能し、バリアブルフィールドの名前を示します。
 - 各列にはバリアブルフィールドを指定します。
 - 10 列のデータソース書類には、10 個のバリアブルフィールドがあります。
- 2 ファイルアクセラレータを使用して、最初の行に画像タイプとバーコードタイプの変数を指定します。

変数タイプ	ファイルアクセラレータ	列見出しの例	データソースの変数エントリ	変数ファイルの場所
画像	[]	[]images	C:/users/John/pictures/pic001.png	C:/users/John/pictures/pic001.png
画像	[]	[C:/users/John/pictures]images	pic002.png	C:/users/John/pictures/pic002.png

変数タイプ	ファイルアクセラレータ	列見出しの例	データソースの変数エントリ	変数ファイルの場所
画像	[~]	[~/images]images	./pic003.png	C:/users/John/project/images/ pic003.png データソースファイルが C:/users/ John/project にある場合
画像	[~/]	[~/]MyImage	pic.003.png	[環境設定で入力したファイルパス]/ pic003.png
画像	[~/pictures]	[~/pictures]MyImage	pic.003.png	[環境設定で入力したファイルパス]/ pictures/pic003.png
画像	[~/pictures/ travel]	[~/pictures/ travel]MyImage	pic.003.png	[環境設定で入力したファイルパス]/ pictures/travel/pic003.png
PDF	{}	{pdfs}	C:/users/John/pdfs/ pdf001.pdf	C:/users/John/pdfs/pdf001.pdf
PDF	{}	{C:/users/John/ pdfs}pdfs	pdf002.pdf	C:/users/John/pdfs/pdf002.pdf
PDF	{~}	{~}pdfs	./pdf003.pdf	C:/users/John/project/pdfs/ pdf003.pdf データソースファイルが C:/users/ John/project にある場合
PDF	{~/}	{~/}MyPDF	pdf003.pdf	[環境設定で入力したファイルパス]/ pdf003.pdf
PDF	{~/PDFfiles}	{~/PDFfiles}MyPDF	pdf003.pdf	[環境設定で入力したファイルパス]/ PDFfiles/pdf003.pdf
PDF	{~/PDFfiles/ invoices}	{~/PDFfiles/ invoices}MyPDF	pdf003.pdf	[環境設定で入力したファイルパス]/ PDFfiles/invoices/pdf003.pdf
バーコード (例: QR コード内の URL)		barcodes	http:// examplesite.com/ barcodes/A001	http://examplesite.com/barcodes/ A001
数量	#	#quantity	200	

3 レコードを入力します。

- 各行は、1 つのレコードの変数を指定します。
- 11 行のデータソース書類には、10 個のレコードがあります (最初の行は列ヘッダーです)。

- 4 ファイルを保存します。

メモ：FreeForm Create では、データソース書類が.xlsx、.xls、.csv のいずれかの形式でなければなりません。

データソース書類にレコード数を追加する

FreeForm Create から Fiery サーバーにデザインを送信する際は、データソース書類にレコード数を追加して、レコードを複数部数印刷することができます。これは名刺のように各レコードの部数を多数印刷する必要がある特定のジョブを印刷する場合や、面付けワークフローをサポートする場合に便利です。

なお、FreeForm Create でサポートしているデータソース書類の形式は.xlsx、.xls、.csv のみです。

- 1 スプレッドシートアプリケーションで、データソース書類を開きます。
- 2 #数量をヘッダーとした列を追加します。
- 3 同じ列に各レコードに必要な部数を入力します。
- 4 ファイルを保存します。

バリエブルデータ書類の作成

マスター書類とデータソースファイルを組み合わせ、Fiery サーバーで印刷できる FreeForm ファイルを作成します。



以下の点に留意してください。

- .pdf 形式のマスター書類が必要
- .xlsx、.xls、.csv のいずれかの形式のデータソース書類が必要

- 1 **作成でバリエブルデータ書類**をクリックします。
- 2 次のいずれかを行って、マスター書類を選択します。
 - **参照**をクリックし、マスター書類を見つけて選択する
 - マスター書類ファイルを**マスター書類の選択**ウィンドウ上の指定のドロップ位置までドラッグする
マスター書類の最初のページが表示されます。
- 3 オプション: 間違ったファイルを選択した場合は、次のいずれかを行います。
 - **変更**をクリックして、正しいファイルを参照する
 - **除去**をクリックして、選択をクリアする
- 4 **次へ**をクリックします。
- 5 次のいずれかを行って、データソース書類を選択します。
 - **参照**をクリックし、データソース書類を見つけて選択する
 - データソース書類ファイルを**データソース書類の選択**ウィンドウ上の指定のドロップ位置までドラッグする

メモ：データソース書類は.xlsx、.xls、.csv のいずれかのファイルである必要があります。
データソース書類に記載されている変数が表示されます。

- 6 オプション: 間違ったファイルを選択した場合は、**変更**をクリックして正しいファイルを参照します。
- 7 変数として使用する列をデータソース書類から選択します。

メモ：画像変数の場合は  を選択し、バーコード変数の場合は  を選択します。

- 8 **作成**をクリックします。
- 9 変数を追加し、必要に応じて編集します。
- 10 バリアブルデータ書類を保存するか、Fiery サーバーに送信して印刷します。

バリアブルデータ書類デザインでファイルを変更する


バリアブルデータ書類デザインで使用するマスターファイルまたはデータソースファイルを変更します。

バリアブルデータ書類デザインでは、マスターファイルとデータソースファイルを組み合わせて VDP 出力を作成します。バリアブルデータ書類デザインで使用するマスターファイルを変更して、データソースファイルを変更せずにデザインを更新できます。また、マスターファイルを変更せずにデータソースファイルを変更して、新しい対象ユーザー向けに変数情報を更新することもできます。

マスターファイルを編集する


- 1 **デザイン** ウィンドウで、マスターファイルのページを右クリックします。
- 2 次のいずれかを選択します。
 - 以前にコピーしたページを挿入するには、**貼り付け**を選択します。
 - 選択したページの前に空白ページを挿入するには、**ページを前に追加**を選択します。
 - 選択したページの後に空白ページを挿入するには、**ページを後に追加**を選択します。
 - 選択したページをデザインから削除するには、**ページを削除**を選択します。

マスターファイルの変更

- 1 **デザイン** ウィンドウの左にあるパネルで、マスターファイルの  をクリックします。
- 2 **変更**をクリックします。
- 3 目的のマスターファイルを選択し、**完了**をクリックします。

メモ：マスターファイルは PDF である必要があります。

データソースの変更



- 1 デザインウィンドウの左にあるパネルで、データソースの  をクリックします。
- 2 **変更** をクリックします。
- 3 目的のデータソースファイルを探して選択し、**完了** をクリックします。

メモ：データソース書類は.xlsx、.xls、.csv のいずれかのファイルである必要があります。

データプリフライトの確認

データプリフライトを使用して、デザインを作成する前にバリエブルデータを確認します。データプリフライトウィンドウには、データソースのすべてのテキスト、画像、PDF、およびバーコードが表示され、それぞれの横に検証結果を示す記号が表示されます。緑色のチェックマークは合格、赤色の X はエラー、イエローのチェックマークはスキップを意味します。

この機能を使用すると、データプリフライトアイコンの表示が変わります。すべてのバリエブルデータが検証に合格すると、データプリフライトアイコンに緑色のチェックマークが表示されます。未解決のエラーがある場合は、エラーが解決されるまで、データプリフライトアイコンに赤色の X 印が表示されます。

- 1 デザインウィンドウのナビゲーションパネルで、チェックマーク () をクリックします。
- 2 次のいずれかの操作を行います。
 - データ検証に合格した場合は、**閉じる** をクリックします。
 - データの検証に失敗した場合は、**検証エラー** セクションでエラーの理由を特定します。**レポートのエクスポート** をクリックすると、レポートのコピーを.csv ファイルとしてエクスポートできます。
 - **閉じる** をクリックして、データプリフライトを終了します。
- 3 データプリフライトアイコンに赤色 X が表示されている場合は、データソースのエラーを修正し、ホイール () をクリックして FreeForm Create ナビゲーションパネルでデータソースファイルを再選択します。
- 4 データ検証に合格するまで、データプリフライトでバリエブルデータを再度確認します。



バリエブルフィールドの追加

バリエブルデータ書類のデザインでページにバリエブルフィールドを追加します。

- 1 バリエブルデータ書類のデザインを開くか作成します。
- 2 ナビゲーションバーを使用して、変数を追加するページに移動します。
- 3 デザインウィンドウで、追加するバリエブルフィールドを検索します。
デザインウィンドウの左側のパネルにある**バリエブルフィールドを検索**ボックスを使用して、変数を検索します。
- 4 変数をクリックし、ページ上の目的の場所にドラッグします。

- 5 プロパティパネルに一覧表示されているバリアブルプロパティを必要に応じて編集します。

ナビゲーションパネルまたはプロパティパネルのフローティングとドッキング

- 1 **ドッキング解除** () ボタンをクリックすると、ナビゲーションパネルまたはプロパティパネルがフローティング状態になります。
- 2 **ドッキング** () ボタンをクリックすると、ナビゲーションパネルが画面左側に、またはプロパティパネルが画面右側にドッキングされます。

メモ：ナビゲーションパネルとプロパティパネルのドッキングおよびドッキング解除は、**デザインモード**と**プレビューモード**のいずれでも可能です。



レイアウトアシスタンスツール

プロパティウィンドウのレイアウトアシスタンスツールを使用して、内容を配置したり書類をレイアウトしたりできます。



デフォルト単位でグリッドラインを表示して、書類の内容を配置できます。グリッドを表示すると、測定ツールが書類左上角の 0, 0 原点に対する X、Y 座標を使用して、選択した内容の位置を表示します。

マスター PDF ファイルに PDF クロップボックス、ブリードボックスまたはトリムボックスが定義されている場合は、**PDF ページボックスを表示** ボタンを使用してこれらのボックスを表示し、書類内の内容を配置できます。

グリッドの表示または非表示

- 1 **グリッドを表示** () をクリックして、調整グリッドを表示します。
- 2 **グリッドを非表示** () をクリックして、調整グリッドを非表示にします。

PDF ページボックスの表示または非表示

- 1 **PDF ページボックスを表示** () をクリックして、PDF クロップボックス、ブリードボックス、トリムボックスを表示します。
- 2 **PDF ページボックスを非表示** () をクリックして、PDF クロップボックス、ブリードボックス、トリムボックスを非表示にします。

位置とサイズの変数

バリエブルデータドキュメントのデザインでは、X 軸と Y 軸のオフセットを指定して、1 つ以上の変数をデザイン内の正確な位置に配置できます。X 軸と Y 軸の値は、デザインの左上隅からのオフセットをポイント単位で指定します。幅と高さの値をポイントで指定して、バリエブル要素のサイズを変更できます。

- 1 バリエブルデータ書類のデザインを開くか作成します。

メモ：グリッドを表示を選択すると、グリッド線が表示され、デザイン内の選択オブジェクトの X/Y 座標をリアルタイムで表示できます。

- 2 1 つ以上のバリエブルオブジェクトを選択します。2 つ以上のバリエブルオブジェクトを選択する場合は、次のいずれかの方法を使用します。
 - 変数をクリックして選択し、Shift キーを押しながら追加の変数をクリックして選択範囲に含めます。
 - マスターページ上をクリックしてドラッグし、ボックスのサイズを調整して、選択範囲内にあるすべての変数を選択します。
- 3 選択範囲をデザインの左端からオフセットする X 値をポイントで指定します。
- 4 選択範囲をデザインの上端からオフセットする Y 値をポイントで指定します。
- 5 選択範囲の幅を変更するには、W 値をポイントで指定します。
- 6 選択範囲の高さを変更するには、H 値をポイントで指定します。

メモ：

幅と高さの調整は、すべてのバーコードタイプで利用できるわけではありません。

変数の配置



バリエブルデータ書類のデザインでは、変数配置ボタンを使用して、選択した領域内にある 2 つ以上の変数のグループを自動的に配置します。

- 1 バリエブルデータ書類のデザインを開くか作成します。
- 2 次のいずれかの方法で、2 つ以上のバリエブルオブジェクトを選択します。







メモ：配置機能を利用できるようにするには、1 つのマスターページ上で 2 つ以上の変数が選択されている必要があります。

- 変数をクリックして選択し、Shift キーを押しながら追加の変数をクリックして選択範囲に含めます。
- マスターページ上をクリックしてドラッグし、ボックスのサイズを調整して、選択範囲内にあるすべての変数を選択します。

3 適切な配置ボタンをクリックします。

- **水平方向に割付** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域内で水平方向に均等に配置する
- **垂直方向に割付** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域内で垂直方向に均等に配置する

メモ: 水平方向に割付と垂直方向に割付機能を利用できるようにするには、1つのマスターページ上で3つ以上の変数が選択されている必要があります。

- **左に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の左端に揃える
- **縦中央に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の縦方向の中央に揃える
- **右に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の右端に揃える
- **上に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の上端に揃える
- **横中央に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の横方向の中央に揃える
- **下に位置揃え** () : 選択したバリアブルオブジェクトを、選択した領域の下端に揃える

テキストの管理

テキストフィールドプロパティ

バリアブルデータ書類デザインの編集時に使用できるさまざまなテキストバリアブルフィールドプロパティの一覧

表 1: テキストフィールドプロパティ

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	関数
テキストフィールド/ カスタムテキスト/ データオブジェクト	変数	データを含まないフィールドは、1つのテキストボックスに重ねて表示されると折りたたまれます。	テキストボックスに含まれている変数を表示する
	ファイル名	ドラッグアンドドロップ	FreeForm Plus 書類ファイル名を表示します。

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	関数
	ページ番号	ドラッグアンドドロップ	レコードページ番号を表示します。
	日付	形式 <ul style="list-style-type: none"> • MM/DD/YYYY • M/D/YY • DD-MMM-YY • MM-DD-YYYY • YYYY-MM-DD • MMMM DD, YYYY • DD MMMM, YYYY • dddd, MMMM DD, YYYY • dddd, DD MMMM YYYY • L • LL 	印刷時の日付を表示します。 日付の表示に使用する形式を選択します。
	時刻	形式 <ul style="list-style-type: none"> • hh:mm A • hh:mm:ss A • hh:mm • hh:mm:ss • LT • LTS 	印刷時刻を表示します。 時刻の表示に使用する形式を選択します。
	レコード ID	ドラッグアンドドロップ	FreeForm Plus レコード番号を表示します。

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	関数
	順序番号	開始	指定された開始番号と段階的増加量で各レコードに数字シーケンスを生成します。 メモ： ネガティブ段階的増加量を指定すると、順序番号は開始数字から降順にカウントされます。 順序番号の最小桁数を指定します。指定された桁数より少ない数字では、指定された最小長を満たすために、先行する 0 を追加で埋め込みます。
		ステップ	
		桁数	
		接頭辞	順序番号の前に付けるテキストの接頭辞文字列を指定します。
		接尾辞	順序番号の後に付けるテキストの接尾辞文字列を指定します。
	テキスト	スタイルを適用するメニュー	スタイルマネージャーで作成したローカルスタイルまたはグローバルスタイルから選択します。
	フォント	フォントメニュー	システムで使用できるフォントから選択します。
		フォントの太さメニュー	選択したテキストボックスで使用するフォントの太さを変更します。
		フォントサイズテキストボックス	フォントサイズをポイントで選択します。
		マスターで使用されているフォントメニュー	選択して、マスターファイルで使用されているフォントを確認します。

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール		関数
	リッチテキストを編集	リッチテキストを編集ボタン		クリックすると、リッチテキストエディターウィンドウが開きます。
	行の高さ	行の高さテキストボックス		増減して、テキストの行間を調整します。
	角度	角度テキストボックス		バリアブルテキストフィールドボックスの角度を度で設定します。
	テキスト装飾	下線ボタン		下線テキストスタイルを適用する場合に選択します。
	テキスト変換	大文字ボタン		テキストを大文字に変換します。
		小文字ボタン		テキストを小文字に変換します。
		タイトルケースボタン		テキストをタイトルケース（各単語の最初の文字を大文字）に変換します。

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	関数
	表示	テキストカラーボックス	<p>カラーピッカータブまたはスポットカラータブを使用して、テキストのカラーを選択します。</p> <p>メモ：色はカラーパレットツールを使用して CMYK、HSL、Hex、RGB で選択するか、カスタムスポットカラーを追加することによって選択できます。</p> <p>カラー選択ウィンドウのスポットカラータブにあるインポートアイコンをクリックして、Adobe Swatch Exchange (.ase) 形式でカスタムスポットカラーをインポートします。</p> <p>色を選択しカラー追加をクリックして、色をプリセットカラーとして保存します。</p>

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	関数
	背景色	<ul style="list-style-type: none"> • 背景色 切り替えボタン • カラー ボックス • 余白 数値ボックス 	<p>背景色 切り替えボタンをクリックして、強調表示されたテキスト要素の背後に背景の塗りつぶし色を有効にします。</p> <p>カラー ボックスをクリックすると、テキストフィールドボックス内の背景色を変更できます。</p> <p>メモ： 色はカラーパレットツールを使用して CMYK、HSL、Hex、RGB で選択するか、カスタムスポットカラーを追加することによって選択できます。</p> <p>カラー選択ウィンドウのスポットカラー タブにあるインポートアイコンをクリックして、Adobe Swatch Exchange (.ase) 形式でカスタムスポットカラーをインポートします。</p> <p>色を選択しカラー追加をクリックして、色をプリセットカラーとして保存します。</p> <p>余白値を指定すると、選択したテキスト要素の背後にある背景色領域のサイズが大きくなります。</p>

テキスト変数の角度を変更する

変数ベースのデザインに追加したテキスト変数の角度を変更します。

- 1 テキスト変数を配置したページに移動します。
- 2 中央パネルのテキスト変数ボックスをクリックして選択します。
選択すると、中央パネルの変数が、上部から線が伸びた赤いボックスで囲まれます。

- 3 選択ボックスの上部から伸びた赤い線の上端にカーソルを置き、カーソルが十字形になったところで止めます。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - テキストを水平から反時計回りに回転させる角度を入力するか、上下の矢印を使用してテキストの角度を調整します。
 - クリックして長押しし、テキスト変数が目的の角度になるまでカーソルをドラッグします。

リッチテキスト書式を使用してテキストを書式設定する

Fiery FreeForm Create 2.0 では、**リッチテキスト書式**がサポートされています。太字、斜体、下線、フォント、フォントサイズ、カラーなど、複数のスタイル機能と書式をテキストボックス内のテキストに適用できます。

リッチテキスト書式を使用する

- 1 **デザイン**ウィンドウで、リッチテキスト書式を適用するテキストを含むテキストブロックを選択します。
- 2 **プロパティ**パネルで**リッチテキストの編集**をクリックします。
- 3 **リッチテキストの編集**ウィンドウで、リッチテキスト書式を追加するテキストを選択します。同じテキストブロック内の異なるテキストに異なるテキスト書式を適用できます。
- 4 選択したテキストにカスタム機能を適用するには、次のいずれかのオプションを選択してください。
 - **太字 (B)** は、太字の書式を適用します。
 - **斜体 (I)** は、斜体書式を適用します。
 - **下線 (U)** は、下線の書式設定を適用します。
 - フォントファミリーメニューからカスタムフォントファミリーを選択します。
 - フォントサイズを選択して、カスタムサイズを適用します。
 - **カラー (A)** ボタンを選択し、カラーピッカーを使用してカラーまたはスポットカラーを選択するか、**プリセットカラー**から選択して **OK** をクリックします。
 - **スタイルを適用する** をクリックして、選択したテキストにローカルまたはグローバルのテキストスタイルを選択します。
- 5 **保存** をクリックします。

リッチテキスト書式をコピーして適用する

フォーマットコピーおよびフォーマットペインティングツールを使用して、テキストの 1 つのセクションからフォーマットをコピーし、それを別のセクションに適用できます。

- 1 **デザイン**ウィンドウで、スタイルをコピーするテキストを含むテキストブロックを選択します。
- 2 **プロパティ**パネルで**リッチテキストの編集**をクリックします。

- 3 コピーするスタイルのテキストを選択し、**形式をコピー** (A) をクリックします。
- 4 テキストスタイルを適用するデザイン内のテキストを選択します。同じテキストフィールドでテキストを選択するか、**キャンセル**をクリックしてリッチテキストエディターを閉じ、別のテキストフィールドを選択してから、**プロパティパネルのリッチテキストの編集**をクリックしてから、テキストスタイルを適用するテキストを選択します。
- 5 **形式を適用** (A) をクリックします。
- 6 **保存**をクリックします。

イメージの管理

画像プロパティ

バリアブルデータ書類デザインの編集時に使用できるさまざまな画像プロパティの一覧

表 2: 画像プロパティ

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
画像	変数	テキストボックス	イメージバリアブル名を表示します。
	適合	縦横比固定	イメージバリアブルの元の比率を使用します。
		引き伸ばす	指定したサイズに合わせてイメージバリアブルを引き伸ばします。 メモ: この設定では、イメージが歪む可能性があります。
		リセット	データソースファイルからインポートした設定にイメージをリセットします。
	角度	イメージの角度	イメージの角度を度の単位で設定します。

画像の角度を変更する

変数ベースのデザインに追加した画像の方向を変更します。

- 1 画像変数を配置したページに移動します。

メモ: PDF オブジェクトでは角度設定は使用できません。

- 2 ページ上の画像をクリックして選択します。
選択すると、中央パネルの変数が、上部から線が伸びた青いボックスで囲まれます。
- 3 選択ボックスの上部から伸びた青い線の上端にカーソルを移動し、カーソルが十字形になるまでそこに置きます。
- 4 クリックして長押しし、画像変数が目的の方向になるまでカーソルをドラッグします。

バーコードの管理

バーコードプロパティ

バリエブルデータ書類デザインの編集時に使用できるさまざまなバーコードプロパティの一覧

表 3: バーコードプロパティ

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
バーコード	変数	テキストボックス	バーコード変数名を表示します。
	バーコード	スタイルを適用する メニュー	スタイルマネージャー で作成したローカルスタイルまたはグローバルスタイルから選択します。
	タイプ	使用可能なバーコードタイプから選択します。	データソースファイルに含まれているバーコード変数と一致するようにバーコードタイプを設定します。 メモ: 代替タイプとして選択できるのは、データソース列の最初のセルのデータが対応している形式のみです。

変数タイプ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
	バーコードのスタイリング	バーコードタイプによって、次のオプションを設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> • バーコードカラー • バーコードのテキストカラー • バーコードとテキストカラー • バーコードの背景カラー 	<p>カラーピッカータブまたはスポットカラータブを使用して、バーコードまたはバーコードテキストのカラーを選択します。</p> <p>メモ：色はカラーパレットツールを使用して CMYK、HSL、Hex、RGB で選択するか、カスタムスポットカラーを追加することによって選択できます。</p> <p>カラー選択ウィンドウのスポットカラータブにあるインポートアイコンをクリックして、Adobe Swatch Exchange (.ase) 形式でカスタムスポットカラーをインポートします。</p> <p>色を選択しカラー追加をクリックして、色をプリセットカラーとして保存します。</p>
		透明な背景切り替えボタン	このオプションに対応しているバーコードタイプに透明な背景を適用する場合に選択します。
	バーテキスト	テキストを表示切り替えボタン	バーコードと共に表示されるテキストを表示します。
	拡大縮小	<ul style="list-style-type: none"> • X 軸 • Y 軸 	X 軸と Y 軸のバーコード変数の倍率を変更します。

バーコードの方向を変更する

変数ベースのデザインに追加したバーコードの方向を変更します。

メモ：バーコードの方向の設定は、QR コードを除くすべてのバーコード形式に適用されます。QR コードでは回転はサポートされていません。

- 1 バーコード変数を配置したページに移動します。
- 2 ページ上のバーコードをクリックして選択します。
選択すると、中央パネルの変数が、上部から線が伸びた青いボックスで囲まれます。
- 3 選択ボックスの上部から伸びた青い線の上端にカーソルを移動し、カーソルが十字形になるまでそこに置きます。


- 4 クリックして長押しし、バーコードが目的の方向になるまでカーソルをドラッグします。

メモ：バーコードは 90°単位でのみ回転します。

- 5 バーコードのサイズを小さくするには、**サイズ**の値を変更します。
- 6 バーコードのスケールを大きくするには、**スケール**の値を増やします。

バーコードへのカラーの適用

バーコード、バーコードテキスト、およびバーコード背景に固有のカラーまたはスポットカラーを適用できます。

- 1 バーコード変数を配置したページに移動します。
- 2 ページ上のバーコードをクリックして選択します。
プロパティパネルにバーコードスタイル設定が表示されます
- 3 次のいずれかのカラー選択オプションを選択します。
 - **カラーピッカー：**バーコードカラー、バーコードテキストカラー、およびバーコード背景カラーに個別のカラーオプションを指定します。
カラーを適用するバーコードの横にあるカラーボックスをクリックし、カラーピッカーを使用してカラーの選択、CMYK 値の指定、またはプリセットカラーから選択し、選択したバーコード要素にカラーを割り当てます。
 - **スポットカラー：**スポットカラーグループを指定し、バーコードとバーコードテキストの両方に適用するスポットカラーを選択します。
バーコードおよびテキストカラーの横にあるカラーボックスをクリックし、スポットカラーグループを選択するか、**新規グループをインポート** () を選択してバーコードおよびバーコードテキストに適用するスポットカラーを選択します。
- 4 OK をクリックします。

スマートバーコード検出

FreeForm Create では、データソースの列ヘッダーにあるバーコードタイプ名を自動的に認識し、マスターファイルにバーコードを追加した際に正しいバーコードタイプが選択されます。

- 1 データソースのバーコード列ヘッダーにバーコードタイプを指定します。サポートされているバーコードタイプ形式コードの一覧は、「付録：サポートされているバーコードタイプ」を参照してください。
- 2 **デザイン**ウィンドウで、**ナビゲーション**パネルからバーコード要素を選択し、デザイン上にドラッグします。

プロパティパネルのタイプで正しいバーコードタイプが自動的に選択されます。

メモ：データソースでバーコードタイプ名を指定していない場合でも、ページにバーコードを追加するときに FreeForm Create が初期データ検証を実行し、一致する可能性があるバーコードタイプのみを**タイプ**リストに自動的に表示します。目的のバーコードタイプ名の先頭文字を入力すると、その文字で始まるセクションに自動的にジャンプできます。

- 3 プロパティパネルの**テキスト表示**切り替えスイッチを設定すると、バーコードテキストの表示/非表示を切り替えることができます。

スタイルマネージャー

スタイルマネージャーでは、テキストスタイルと QR コードスタイルのローカルまたはグローバルライブラリを作成して、すばやく一貫したパーソナライゼーションを実現できます。

スタイルの作成と保存

変数ベースのデザインで、新しいスタイルを作成して保存します。

- 1 **デザイン**ウィンドウでデザイン内の空白領域をクリックします。
プロパティパネルにスタイルマネージャーボタンが表示されます。
- 2 プロパティパネルで**スタイルマネージャー**をクリックします。
スタイルマネージャーウィンドウが表示されます。
- 3 作成するスタイルに応じて、次のいずれかのタブを選択し、テキストスタイルまたは QR コードスタイルを作成します。
 - **テキストスタイル**：新しいテキストスタイルを作成します。
 - **QR コードスタイル**：新しい QR コードスタイルを作成します。
- 4 スタイルを現在のデザインにのみ保存するか、任意のデザインで使えるようにするかを、次のいずれかから選択します。
 - **ローカル**：スタイルを現在のデザインにのみ保存します。
 - **グローバル**：現在のコンピューターで作成されるすべてのデザインでスタイルを使用できるようにします。
- 5 スタイルマネージャーウィンドウで**新しいスタイルの追加**をクリックします。プロパティパネルの**スタイル名**フィールドでスタイルのデフォルト名を変更できます。
- 6 プロパティパネルで、テキストスタイルまたは QR コードスタイルに適用するプロパティを選択します。
- 7 デザインの選択が完了したら、**保存**をクリックします。

文字スタイルのプロパティ

次の表に、新しいテキストスタイルを作成するときに使用できるテキストスタイルのプロパティを示します。

表 4: 文字スタイルのプロパティ

プロパティグループ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
タイポグラフィ	スタイル名	テキストボックス	テキストスタイルの名前を指定します。
	フォントファミリー	メニュー	使用可能なフォントファミリーを一覧表示します
	フォントスタイル	メニュー	一部のフォントファミリーで使用できるフォントスタイルを一覧表示します。
	フォントサイズ	数値ボックス	フォントサイズをポイント単位で指定します。
	行の高さ	数値ボックス	テキストの行間をポイントで指定します。
	角度	数値ボックス	テキストを反時計回りに回転させる角度を度単位で指定します。
	位置揃え	[イメージはここに入ります]	テキストを左、中央、または右に揃えます。
	テキスト装飾	[イメージはここに入ります]	下線など、使用可能なテキスト装飾を指定します。
	テキスト変換	[イメージはここに入ります]	大文字、小文字、タイトルケースの間でテキストケースを変更します。
表示	テキストカラー	カラーピッカー	カラーピッカーを使用してカラーを指定するか、スポットカラーを指定します。
	背景色	カラーピッカー	テキストの周囲のスペースに適用するカラーを指定します。
	余白	数値ボックス	テキストの外側に背景をどの程度拡張するかを、ポイント単位で指定します。

QR コードスタイルのプロパティ

次の表に、新しい QR コードスタイルを作成する際に使用できる QR コードスタイルのプロパティを示します。

表 5: QR コードスタイルのプロパティ



プロパティグループ	サブグループ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
一般	なし	スタイル名	テキストボックス	QR コードスタイルの名前を指定します。
表示	QR デザイン	QR コード要素の形状	QR コードの形状メニュー	QR コードを構成する QR ドット、コーナーフレーム、コーナードットの形状スタイルを指定します。詳細については、 QR デザイン形状のプロパティ を参照してください。
	QR カラー	QR コード要素カラー	カラーピッカー	QR コード要素に適用するカラーを指定します。
	ロゴを挿入	画像をアップロード	ボタン	クリックして、QR コードの中央に配置する画像ファイルを選択します。
		画像サイズ	スライドコントロール	左右に調整して、画像を拡大または縮小します。
		ロゴの背景	切り替えボタン	クリックすると、ロゴの白い背景が不透明になり、画像の周りに空白が作成されます。選択していない場合は、ロゴの背景は透明になります。
		余白	数値ボックス	中央画像のサイズを縮小することで、中央画像の外側に背景をどの程度拡張するかを、ポイント単位で指定します。
	背景オプション	背景	切り替えボタン	クリックすると、背景設定がアクティブになります。









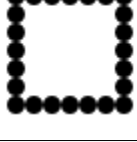
プロパティグループ	サブグループ	使用可能なプロパティ	コントロール	機能
		余白	数値ボックス	QR コードの外側に背景設定をどの程度拡張するかを、ポイント単位で指定します。
		ソリッド	ラジオボタン	単色の背景色を指定します。
			カラーピッカー	QR コードの背景に適用する背景色またはスポットカラーを指定します。
		グラデーション	ラジオボタン	QR コードの背景に適用するカラーグラデーションを指定します。
			グラデーションピッカー	QR コードの背景に適用するカラーグラデーションのプロパティを指定します。 詳細については、 QR コード要素にカラーグラデーションを適用する を参照してください。










QR デザイン形状のプロパティ

次の表に、新しい QR コードスタイルを作成する際に使用できる QR コードスタイルのプロパティを示します。

表 6: QR デザイン形状のプロパティ

プロパティグループ	サブグループ	使用可能なプロパティ	スタイルの例
図形	QR ドット	四角	
		角丸	

プロパティグループ	サブグループ	使用可能なプロパティ	スタイルの例
		ドット	
		クラシック	
		クラシック(角丸)	
		特大の角丸	
	コーナーフレイム	円	
		四角	
		特大の角丸	
		角丸	
		ドット	

プロパティグループ	サブグループ	使用可能なプロパティ	スタイルの例
		クラシック	
		クラシック(角丸)	
	コーナードット	円	
		四角	
		特大の角丸	
		角丸	
		ドット	
		クラシック	
		クラシック(角丸)	

QR コード要素にカラーグラデーションを適用する

カラーグラデーションを指定して、QR コードのドット、コーナースタイル、コーナードット、背景塗りに適用できます。グラデーション塗りを使用すると、2 つ以上のカラーまたはストップの間でなめらかにカラーが変化する塗りを作成できます。任意の数のストップを指定でき、各ストップ間のペアでなめらかな遷移が作成されます。

- 1 **スタイルマネージャー** の QR コードプロパティウィンドウで、**表示の QR カラー** を選択します。
- 2 QR ドット、コーナースタイル、コーナードットのいずれかで **グラデーション** を選択します。

メモ: すべての要素に同じカラーを使用するを選択すると、すべての QR コード要素に同一のカラーグラデーションを適用できます。

- 3 サンプルグラデーションをクリックしてグラデーションエディターを開き、グラデーション設定を指定します。

4 **タイプ**で、次のいずれかのオプションを選択します。

- **線形**は、1つのカラーから別のカラーへ直線的に変化するグラデーションを作成します。線形グラデーションでは、**回転**を設定して水平方向を基準に時計回りに0〜360度の範囲でグラデーションを回転できます。
- **放射状**を選択すると、最初のストップで指定した中心の1色から、他のストップで指定する周囲のカラーに向かって、円形に外側へ放射状に広がるグラデーションを作成します。

5 グラデーションのカラーを指定するには、まずグラデーションの両端にあるボックスのいずれかを選択してカラーピッカーを開きます。

6 カラーピッカーボックス内をクリックしてカラーを指定するか、カラーモデルを選択してカラー値を直接入力します。

メモ：+カラーの追加を選択すると、そのカラーをプリセットカラーとして保存できます。プリセットカラーは最大12色まで保存できます。

7 グラデーションの端点ボックスをスライドして、グラデーションの色が変化する割合を調整します。

8 プラスボタン（**+**）をクリックして、グラデーションにカラーを追加します。

9 各カラーの位置は、0〜100の数値を入力して、グラデーション内での配置を直接指定できます。

10 ごみ箱アイコン（）をクリックすると、グラデーションからそのカラーを削除できます。

11 **+プリセットの追加**を選択して、現在のグラデーションをプリセットグラデーションとして保存できます。グラデーションプリセットは最大9件まで保存できます。

12 デザインの選択が完了したら、**OK**をクリックします。

すべてのページにコピー

バリアブルデータ書類デザインのすべてのマスターページにバリアブルオブジェクトをコピーします。

1 バリアブルデータ書類のデザインを開きます。

2 イメージ、PDF ファイル、バーコード、カスタムテキストなど、デザイン内の各レコードのマスターページごとに表示するバリアブル要素を右クリックします。

3 **メモ**：このオプションは、マスターファイルに複数のページがある場合にのみ表示されます。

すべてのページにコピーを選択します。

バリアブルフィールドの削除


バリアブルデータ書類のデザインでページからバリアブルフィールドを削除します。

1 バリアブルデータ書類のデザインを開きます。

2 ナビゲーションバーを使用して、変数を削除するページに移動します。

3 そのページで、削除するバリアブルフィールドをクリックします。


4 次のいずれかを行います。

- 削除 () をクリックする
- Delete キーを押す
- 右クリックして削除を選択する

バリアブルフィールドの複製

バリアブルデータ書類のデザインでページからバリアブルフィールドを複製します。

- 1 バリアブルデータ書類のデザインを開きます。
- 2 ナビゲーションバーを使用して、変数を複製するページに移動します。
- 3 そのページで、複製するバリアブルフィールドをクリックします。
- 4 次のいずれかを行います。

- 複製 () をクリックする
- 右クリックして複製を選択する

マルチ-up マスターを使用する

コンテンツをグループ化し、グループ化したコンテンツをコピーして貼り付けることによって、レイアウトに複数のレコードが含まれるマスターレイアウト書類を作成できます。グループ化されたコンテンツが貼り付けられるたびに、データソース内の次のレコードが自動的に選択されます。レイアウトで複数のグループを使用できます。グループを選択すると、そのグループに関連付けられているグループ番号とレコード番号が **プロパティ** パネルに表示されます。

- 1 **デザイン** ウィンドウで、レコード用にグループ化するすべてのオブジェクトを選択します。**Shift** キーを押しながら各オブジェクトをクリックするか、領域をドラッグして複数のオブジェクトを選択できます。
- 2 グループ化されたコンテンツをコピーするには、次のいずれかを行います。
 - 右クリックして複製を選択します。
 - **ファイル > コピー** を選択します。
- 3 グループ化されたコンテンツを貼り付けてマスターレイアウトで新しいレコードとして使用するには、次のいずれかの操作を行います。
 - 右クリックして貼り付けを選択します。
 - **ファイル > 貼り付け** を選択します。

貼り付けられた各グループは、データソースの次のレコードデータセットを使用します。ページ上のレコードの順序は、グループ化されたオブジェクトの配置順序に対応します。

バリアブルオブジェクトの順序を定義する

バリアブルオブジェクトを前後に移動して、デザイン内でのオブジェクトの表示順を制御します。

- 1 **デザイン**ウィンドウで、バリアブルオブジェクトを選択します。
- 2 バリアブルオブジェクトを右クリックし、次のいずれかを選択します。
 - **最前面に移動**
 - **前方に移動**
 - **最背面に移動**
 - **後方に移動**
- 3 デザイン内の任意の場所で選択範囲の外側をクリックすると、変更を適用してすべてのレイヤーオブジェクトを再描画します。

変数ベースのデザインをプレビューする

印刷する前に、バリアブルデータ書類ワークフローで、変数とマスター書類を組み合わせた結果を調べます。

- 1 バリアブルデータ書類のデザインを開くか作成します。
- 2 **プレビュー**をクリックします。
- 3 **プレビュー**パネルの下部にあるコントロールバーを使用して、変数ベースデザインのページをページ単位で移動します。



ボタンを押し、ドラッグして、コントロールバーを動かします。

- 4 左側のパネルでレコードを選択して、そのレコードを使用するデザインをプレビューします。

メモ：左側のパネルにある**フィルター**を使用して、レコードの検索結果を絞り込みます。すべての変数が正しく表示されるように、**最長**レコードと**最短**レコードで絞り込みます。

- 5 プレビューを調べます。



をクリックするとズームイン、



をクリックするとズームアウトできます。

デザインの保存

- 1 **保存**をクリックします。
- 2 ファイルの場所を選択します。
- 3 ファイルの名前を入力します。
- 4 **保存**をクリックします。


Fiery サーバーにデザインを送信する

デザインを Fiery サーバーに送信して印刷します。FreeForm Create は設定を記憶し、次の印刷時にも同じ設定が選択されます。

以下の点に留意してください。

- Fiery サーバーに初めてデザインを送信する場合は、その Fiery サーバーのサーバーアドレスまたはサーバー名、ユーザー名、パスワードが必要です。Fiery のシステム管理者ユーザー名は **Admin** で、システム管理者パスワードが必要です。
- 編集が完了している必要があります。

1 **Fiery サーバーに送信**をクリックします。

2
既存の Fiery サーバーを選択するか、**Fiery 追加** () をクリックして新しい Fiery サーバーを追加します。

3 **Fiery サーバー**ウィンドウで、Fiery サーバーの**サーバーアドレス**または**サーバー名**、**ユーザー名**、**パスワード**を入力します。

4 **ログイン**をクリックします。

5 オプション: **設定**リストから適切な設定を選択します。

6 **メモ: Fiery FreeForm Plus を使用してファイルを処理**チェックボックスは、FS400 以降の Fiery サーバーでのみ使用でき、デフォルトで選択されています。

FS400 以降の Fiery サーバーでは、特定のジョブの処理に予想以上の時間がかかる場合があります。この場合は、印刷前に **Fiery FreeForm Plus を使用してファイルを処理**チェックボックスをオフにすると、従来の FreeForm 出力を使用して処理を高速化できます。

7 **処理後待機**をクリックするか、リストから Fiery サーバーの別のジョブアクションを選択します。

次のジョブアクションから選択します。

- **処理後待機**: ファイルを処理して**待機**キューに入れます。
- **待機**: ファイルを**待機**キューに入れます。
- **印刷**: ファイルを印刷します。
- **印刷後待機**: ファイルを印刷して**待機**キューに入れます。

Fiery XF サーバーにデザインを送信する

デザインを Fiery XF サーバーに送信して印刷できます。


Fiery FreeForm Create は、Fiery XF 9.0 以降をサポートしています。

- 1 **Fiery サーバーに送信**をクリックします。
- 2 既存の Fiery XF サーバーを選択するか、**Fiery サーバー追加**をクリックして新しい Fiery XF サーバーを追加します。
- 3 **Fiery サーバー**ウィンドウで、Fiery XF サーバーのサーバーアドレス、ユーザー名、パスワードを入力します。
- 4 **ログイン**をクリックします。
- 5 接続されているプリンター、ワークフロー、用紙を選択します。
- 6 全レコードを印刷するか、選択した範囲を印刷するか、バッチ印刷（指定した数のレコードやアイテムを1つのバッチとして印刷）するかを選択します。
- 7 **プリンターに送信**をクリックします。

単一レコードの PDF プレビューを保存する

単一のレコードをソフト校正 PDF プレビューとして保存できます。


- 1 デザインを開くか作成します。
- 2 **プレビュー**をクリックします。
- 3 レコードをクリックして PDF プレビューとして保存します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。

- PDF プレビュー () をクリックします。
- **ファイル > エクスポート**を選択します。

- 5 PDF プレビューを保存する場所を指定します。
 - 6 PDF プレビューの名前を指定し、**保存**をクリックします。
- FreeForm Create は、指定されたレコードから PDF プレビューを保存します。

レコード範囲を Fiery サーバーに送信する

Fiery サーバーに印刷するレコードを選択できます。

- 1 **Fiery サーバーに送信**をクリックします。
- 2 既存の Fiery サーバーを選択するか、**Fiery 追加** () をクリックして新しい Fiery サーバーを追加します。
- 3 **範囲選択**ボタンをクリックします。
- 4 レコード範囲を指定します。レコード番号やレコード範囲を複数指定する場合はカンマで区切ります。

- 5 オプション: **設定**リストから適切な設定を選択します。
- 6 **処理後待機**をクリックするか、リストから Fiery サーバーの別のジョブアクションを選択します。
次のジョブアクションから選択します。
 - **処理後待機**: ファイルを処理して**待機**キューに入れます。
 - **待機**: ファイルを**待機**キューに入れます。
 - **印刷**: ファイルを印刷します。
 - **印刷後待機**: ファイルを印刷して**待機**キューに入れます。

FreeForm Create は指定されたレコードを Fiery サーバーに送信します。

小さいバッチで Fiery サーバーにデザインを送信する

Fiery サーバーに小規模なジョブのバッチでデザインを送信して印刷できます。これは、非常に大きいデザインを送信する場合に便利です。

- 1 **Fiery サーバーに送信**をクリックします。
- 2
既存の Fiery サーバーを選択するか、**Fiery 追加** (**+**) をクリックして新しい Fiery サーバーを追加します。
- 3 **バッチサイズ**ボタンをクリックします。
- 4 各バッチに印刷するレコードの数を指定します。
- 5 オプション: **設定**リストから適切な設定を選択します。
- 6 **処理後待機**をクリックするか、リストから Fiery サーバーの別のジョブアクションを選択します。
次のジョブアクションから選択します。
 - **処理後待機**: ファイルを処理して**待機**キューに入れます。
 - **待機**: ファイルを**待機**キューに入れます。
 - **印刷**: ファイルを印刷します。
 - **印刷後待機**: ファイルを印刷して**待機**キューに入れます。

FreeForm Create では、指定されたレコード数を使用してジョブが複数のジョブに分割されます。

FreeForm Create を使用する Fiery サーバーを管理する

FreeForm Create で使用している Fiery サーバーを追加および削除できます。

1 **Fiery サーバーに送信**をクリックします。

2

Fiery サーバーを追加または削除するには、**Fiery サーバーの管理** () をクリックします。


FreeForm Create から印刷する Fiery サーバーを追加する

FreeForm Create から印刷する Fiery サーバーを追加できます。

以下の点に留意してください。

- Fiery サーバーに初めてデザインを送信する場合は、その Fiery サーバーの**サーバー名**または**サーバーアドレス**、**ユーザー名**、**パスワード**が必要です。Fiery サーバーのシステム管理者ユーザー名は **Admin** で、システム管理者パスワードが必要です。
- 編集が完了している必要があります。

1

Fiery 追加 () をクリックして、新しい Fiery サーバーを追加します。


2 Fiery サーバーの**サーバー名**または**サーバーアドレス**、**ユーザー名**、**パスワード**を入力します。

3 **ログイン**をクリックします。

FreeForm Create で使用されている Fiery サーバーを削除する

FreeForm Create で使用されている Fiery サーバーを削除できます。

1

削除する Fiery サーバーのアドレスの横にある**削除** () をクリックします。

2 **はい**をクリックして、選択した Fiery サーバーの削除を確認します。

付録：サポートされているバーコードタイプ

次の表に、自動書式設定サポートに使用するバーコードタイプコードと、各バーコードタイプの説明を示します。

表 7: サポートされているバーコードタイプ

データソースの列ヘッダーで使用する名前	FreeForm Create バーコードリスト内での名前
auspost	AusPost 4 State Customer Code
azteccode	Aztec Code
aztecrune	Aztec Runes
bc412	BC412
coop2of5	COOP 2 of 5
channelcode	Channel Code
rationalizedCodabar	Codabar
codablockf	Codablock F
code11	Code 11
code128	Code 128
code16k	Code 16K
code2of5	Code 25
code39	Code 39
code39ext	Code 39 Extended
code49	Code 49
code93	Code 93
code93ext	Code 93 Extended
codeone	Code One
azteccodecompact	Compact Aztec Code

データソースの列ヘッダーで使用する名前	FreeForm Create バーコードリスト内での名前
pdf417compact	Compact PDF417
raw	Custom 1D symbology
daft	Custom 4 state symbology
datamatrix	Data Matrix
datamatrixrectangular	Data Matrix Rectangular
datamatrixrectangularextension	Data Matrix Rectangular Extension
datalogic2of5	Datalogic 2 of 5
identcode	Deutsche Post Identcode
leitcode	Deutsche Post Leitcode
dotcode	DotCode
ean13	EAN-13
ean13composite	EAN-13 Composite
ean14	EAN-14
ean2	EAN-2 (2 digit addon)
ean5	EAN-5 (5 digit addon)
ean8	EAN-8
ean8composite	EAN-8 Composite
flattermarken	Flattermarken
gs1-cc	GS1 Composite 2D Component
gs1datamatrix	GS1 Data Matrix
gs1datamatrixrectangular	GS1 Data Matrix Rectangular
databarexpanded	GS1 DataBar Expanded
databarexpandedcomposite	GS1 DataBar Expanded Composite
databarexpandedstacked	GS1 DataBar Expanded Stacked
databarexpandedstackedcomposite	GS1 DataBar Expanded Stacked Composite
databarlimited	GS1 DataBar Limited

データソースの列ヘッダーで使用する名前	FreeForm Create バーコードリスト内での名前
databarlimitedcomposite	GS1 DataBar Limited Composite
databaromni	GS1 DataBar Omnidirectional
databaromnicomposite	GS1 DataBar Omnidirectional Composite
databarstacked	GS1 DataBar Stacked
databarstackedcomposite	GS1 DataBar Stacked Composite
databarstackedomni	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional
databarstackedomnicomposite	GS1 DataBar Stacked Omnidirectional Composite
databartruncated	GS1 DataBar Truncated
databartruncatedcomposite	GS1 DataBar Truncated Composite
gs1dldatamatrix	GS1 Digital Link Data Matrix
gs1dlqrcode	GS1 Digital Link QR Code
gs1dotcode	GS1 DotCode
gs1northamericancoupon	GS1 North American Coupon
gs1qrcode	GS1 QR Code
gs1-128	GS1-128
gs1-128composite	GS1-128 Composite
hibcazteccode	HIBC Aztec Code
hibccodablockf	HIBC Codablock F
hibccode128	HIBC Code 128
hibccode39	HIBC Code 39
hibcdatamatrix	HIBC Data Matrix
hibcdatamatrixrectangular	HIBC Data Matrix Rectangular
hibcmicropdf417	HIBC MicroPDF417
hibcpdf417	HIBC PDF417
hibcqrcode	HIBC QR Code
hanxin	Han Xin Code

データソースの列ヘッダーで使用する名前	FreeForm Create バーコードリスト内での名前
iata2of5	IATA 2 of 5
isbn	ISBN
ismn	ISMN
issn	ISSN
itf14	ITF-14
industrial2of5	Industrial 2 of 5
interleaved2of5	Interleaved 2 of 5 (ITF)
code32	Italian Pharmacode
japanpost	Japan Post 4 State Customer Code
msi	MSI Modified Plessey
mands	Marks & Spencer
matrix2of5	Matrix 2 of 5
maxicode	MaxiCode
microqrcode	Micro QR Code
micropdf417	MicroPDF417
symbol	Miscellaneous symbols
pdf417	PDF417
pharmacode	Pharmaceutical Binary Code
pzn	Pharmazentralnummer (PZN)
plessey	Plessey UK
posicode	PosiCode
qrcode	QR Code
rectangularmicroqrcode	Rectangular Micro QR Code
kix	Royal Dutch TPG Post KIX
royalmail	Royal Mail 4 State Customer Code
mailmark	Royal Mail Mailmark

データソースの列ヘッダーで使用する名前	FreeForm Create バーコードリスト内での名前
sscc18	SSCC-18
swissqrcode	Swiss QR Code
telepen	Telepen
telepennumeric	Telepen Numeric
pharmacode2	Two-track Pharmacode
upca	UPC-A
upcacomposite	UPC-A Composite
upce	UPC-E
upcecomposite	UPC-E Composite
oncode	USPS Intelligent Mail
planet	USPS PLANET
postnet	USPS POSTNET
ultracode	Ultracode